戰時對策に就て

芝浦製作所 和田隆造

はしがき

戰時の勞働對策を語る機會を與へられました事は、私として誠に光榮ではありますが、元來工場育ちの一技術者でありまして茲廿三年勞務管理の仕事を擔當して居る に過ぎず、政治、經濟、哲學、法律等には至つて疎く經驗にも乏しい、全くの素人の言が先輩諸彦の御叱正を得れば幸と致す次第であります。

一貫せる指導精神の必要

戰時を語るには、戰前即ち平時に於ける勞働對策と、戰後の對策を通じて、一貫した指導精神が、確立して居なければならぬと考へる。其の時々の思ひ付きや、或は世間の思惑に押されて、平常の方針とは丸で喰ひ違つた取扱ひをしたり、一時の感激や、見榮や、外聞で、何等の體系も、自信もなく、研究の施設や給與等が、如何に將來の勞務管理に、惡影響を及ぼすかと云ふ事を吾々當事者として三省す可きだと思ふ。

國策に對する協力の觀點

殊に吾等の從來する重工業が、今日一民間事業としては、國家的に重要な部門であり、社會的に相當な影響を持つ事を思ふ時「產業を通じての報國」は「國策に對する協力」が最も重要である事を痛感する。從て其所に起り得る、事業管理上より來る矛盾、又は從業員の、思想、感情に對する影響等を、如何に調和せしむ可きかに就る事が深甚の考慮を必要とするのは申す迄も無い。

平時に於ける戰時對策として、事業の性質上、全從業員數(豫後備補充兵)との關係、比率を如何にする高度化方策等は常に、充分考へ置く可きであらう。

勞働力補給に關して

戰時に於て第一に起る問題は生產力の超擴大要求と、從業員殊に熟練工の必然的減少(應召)である。急激に要する大きな勞働力を、如何にして、何所に求む可きかの方針を確立するのが肝要であらう。事業家の必要とする所は、優秀な技術者と熟練工なる事無論だが、熟練工は急激に增加せぬ、從て大工場が好條件で募集すれば、相當數の熟練工を得る事は左程困難ではあるまいが、國家的に見れば、工場の水を搔き廻すに等しい。此の事は事業家の特に德義上、慎む可き點である計りでなく、寧ろ、職工の養成に對して國家に協力する事が望しいと思ふ。素人上の何處に求む可きかに就ても、漫然とやると、隨分社會的に摩擦が起る。

米屋の番頭も、自轉車屋の小僧も、魚屋の若い衆も矢鱈に引張て來ては主人が困る。農林省や拓務省では何うお考へで居られるか知らないが、農家の二男坊以下で親の承諾が有れば一番差障りが少い樣に思はれる。增員の際に考へる可き事は、採用方針が人數を多く取る事丈けに重點を置くと、移動率が著しく增える事である。戰時中の採用でも、矢張り將來工場の中堅を養成する考へで行はないと凡ゆる方面に無理が出來る。

女工や少年工を戰時に採用する事も、各方面で考へられて居るが、經濟的觀點からと、戰時勞力補給の觀點とは、全然別箇に考へられる可きで、戰時對策としては寧ろ男子の勞働力が得られない事が明かである場合にのみ考慮せらる可きだらう。何故ならば、保健其他の問題は別としても、業態に依ては、工場の組織、工作方法等のルーチンの變更を必要とし、復員時には幾多の問題を殘すからである。

長時間勞働に就て

勞働時間に就ては、最近傷病率と關聯して種々論議せられて居るが、技術者として永年工場生活をやつて居た私なと、誠に妙な氣持がする。作業の種類、賃金制度、工場管理、勞働者の年齢と健康等を無視?して、勞働時間一本で論議される所に無理が在る樣に思はれる。勞働者の體位の低下、傷病率の增加等は、誰よりも事業家が第一に苦痛とする所と考へる。

殘業に就ては、其の影響する所、今日の問題としては、最も骨の折れる、最も弱い職工を標準にして他の充分の勞働力を無視した、平均を狙つて弱い職工に無理があつたりせぬ樣、充分實情に就て研究の要があらうと思ふ。

出征者取扱の根本精神

出征者を如何に取扱ふ可きかに就ては、平常の從業員に對する方針に依て、色々考へ方も有らうが、事業の發展が從業員の協力を必要とし、眞の協力は相互の信頼から生ずる事を信ずるならば、其の取扱方も自ら定つて來るのではあるまいか。幾ら給與が良くても、規則一點張りで、相手の事情に頓着無く、丸て算盤と紙丈けのものや「賣印持參御出頂相成度」では、眞心が通じ兼ねる樣に思はれる。眞心と、眞心の交流が生じて、始めて吾々の事業が成立つと考へ度い。

傷病兵復職論

復員が始まると、眞先に傷病兵の處置が問題となる。抽象的に言へば、出來る丈け原職に復歸させるとは誰でも考へるが、實際問題となると仲々困難な事情が起る。

工場は生產の場所であるから、生產に不適當な者は、金を與へて轉業さす可きだとする考へ方があり、一方人情として動ける限り全部復職さす可きだと云ふ論も出る。後者は世間一般に誠に妙な氣持が起る。從業員一般に對しても感情上も無難らしく見えるが、工場生活の實際をよく知つてる者から見ると、生產不適任者の工場生活が、永い年月の間に精神的物質的に、如何に不愉快であり苦痛であるかを考へると、共處に餘程考慮が拂はれねばならぬ。

根本的考へ方としては、矢張り一時の感情に依らずに、復職、轉業何れが本人の將來に幸福であり得るやを先決問題とす可きであらう。

(三頁下段より)

襟を正して思ひを茲に致す時、一產業形態內に對立的のものが、ある事は、如何に說明これ努めても天業扶翼の產業、道義產業とは云ひ得ない。天業無窮の產業でない事は無論であると思ふ。

故に勞働組合の如き、相信じ得ない、內容的に對立のものは、天業無窮の產業の中には必要のない許りでなく、却て有害であると思ふ。

日本の勞働組合

日本には昔より斯くの如き、對立的、個人主義的、觀念による集團はなかつた。己を空しくして、自己の天命を、共日々〳〵に遂行完成せんとする尊き精神力が、今日までの日本の姿を生み、共間種々なる難關も、此道義の力により突破して來たのである。

萬々一にも各部門の中に、斯くの如き、對立的のものが出來なければならぬとするならば、それは既に共の部門の存在價値のなくなつて居る時と思ふ。

而し共組織形態が、天業扶翼の必要ありとするならば、共組合長、幹部は、事業經營の責任者であり、幹部たるものが、なり得るものであつて、始めて、相互の反省もあり、指導もあり、馘糧もあると思ふ。(以下次號掲載)

產業道

日本石油株式會社 中田謙次

勞資ノ階級對立

昔ヤ、資本ハ個人ノ獨占的支配ニ歸属シ、企業ハ私人ノ營利追求ノ目的ノ爲ニノミ營マレルモノナリト考ヘラレテキタ。茲ニ個人主義思想ガ胚胎シ、勞資ハ常ニ對立スベキモノトスル忌ハシキ階級觀念ガ醸成セラレタノデアツタ。勞働者ハ團結ト組織トヲ以テ資本家ニ挑ミ、資本家ハ又支配者タル地位ニ倣リ、優越者タル自尊心ニ驅ラレテ勞働者ヲ奴隷視シタ。斯クテ勞資間ニハ階級對立觀ニ因ハレタル紛爭ガ絶エナイ。

階級觀念ニ基ク爭鬪ノ續ケラレテキル處ニハ、唯ニ合ス資本家ト勞働者ノ對立的存在ノミガ前面ニ浮ビ、國家ノ存立ト民族ノ歷史的發展ハ閑却セラレル。

非常時ト產業覺醒

斯クノ如キ謬想ニ支配サレタ社會思潮ノ溷漫セントスル折カラ、歷史ハ新ナル情勢ヲ展開シ、國際關係ノ尖銳化ハ、國民ヲシテ自ラ國家ノ獨立性、民族ノ生存權確保ノ欲求ヲ自覺セザルヲ得ザル至ラシメタ。國家意識ノ昂揚ト、民族精神ノ高潮ハ、個人主義、自由主義思想ヲ排絶セシメルト共ニ、產業ハ個人ノ營利追求ノ爲ニノミ存スルト云フ誤レル觀念ヲ打破スルニ至リ、企業ノ使命、勞働ノ意義ガ其ノ本來ノ貌ニ於テ認識セラレルニ至ツタ。

企業ノ國家的意義

個人ノ私有スル財產及ビ勞働者ノ保有スル勞働力ハ、國家並ニ民族ノ發展ノ目的ノ爲ニ貢獻セラルモノデアル。個人ハ國家ノ存立ノ下ニ生存スル。國家並ニ民族ノ觀念ヲ離レテ個人ノ存在ハアリ得ナイ。個人ガソノ財產及ハ勞働力ヲ擧ゲテ國家ニ奉仕スルト同時ニ、個人ニ依テ構成サルル國家ハ社會ノ最高組織トシテ個人ノ生存ヲ保證スル。企業組織體ハ實ニ斯ノ如キ國家ニ貢獻サルベキ個人ノ財產ト勞働力ヲ以テ構成サレテキルノデアツテ、茲ニ企業ノ國家的意義ガ性格付ケラレテ來ル。即チ企業ハ個人ノ私慾ヲ離レタ社會的機能ヲ營ム共同體的存在デアツテ、一私人ノ獨占的所有物タルベキデハナイ。勞資ハ何レモカカル企業組織體ヲ通ジテ國家ニ奉仕シ、其ノ發展ニ寄與スベキモノデアル。カク考ヘルトキ勞資對立ノ觀念ハ根底ヨリ覆ヘサレ、國家並ニ民族ノ興隆ヲ第一義トスル勞資ハ一體ノ家ガ滑新ナ容ヲ以テ我々ノ前ニ具現スルノデアル。資本家ハ企業並ニ勞働者ニ對スル態度ヲ如上ノ意味ニ於テ再批判セネバナラナイト共ニ、勞働者ノ勞働並ニ資本家ニ對スル觀念モ亦コノ根本意義ニ基イテ決定サレナケレバナラナイ。

非常時下勞資一體ノ眞實

非常時局ニ際シ、勞資ハロヲ揃ヘテ從來ノ對立的態度ヲ拋擲シ、國家觀念ノ下ニ全テノ紛爭ヲ根絶スベキコトヲ高唱シテキル。然シ乍ラ勞資一體ト云フコノ觀念ノ根底ヲナス核心ノ認識ニ迄透徹シタ者ガ果シテ幾何アラウカ。ロニ國家觀念ヲ唱ヘツツ、コノ假面ノ下ニ私利ヲ貪リ或ハ國爭ノ機ヲ覗フ輩ノ存在ヲ嘆クハ單ナル杞憂ナリト云フベキデアラウカ。勞資融合ヲ計ル勞務管理ノ精細ナル研究調査モ、コノ基本觀念ニ基カザルイ。時局ニ當面シテ最モ重要ナル問題ハ將ニカカル表面ヲ糊塗スル過ギヌ輕薄ナル思想ノ存在ヲ絶滅スルコトニアル。

「產業道」ト「ハ何ゾヤ

勞資紛爭ノ明快ナル解決ハ、資本家勞働者共ニ其ノ本分ハ國家ノ爲ニ存在シ國家ニ奉仕スベキモノデアルコトヲ自覺シ、國家觀念ニ目醒メルトキ始メテ可能ナノデアツテ、勞資兩者ガコノ相互ノ國家的使命ノ前ニ胸襟ヲ開クトキ茲ニ勞資一如ガ實現スル。勞資間ノ諸問題ノ根本的解決ハ此處ニ返徹底シテ始メテ可能ナノデハアルマイカ。

斯ク觀ジ來ルトキ所謂「產業道」トハ其ノ精神極メテ平凡ナ事實ニ在ルコトヲ識ル。我ガ國古來ノ國家的觀念、即チ國家ニ對シテノ性ヲ沒却セシメル自己犧牲ノ武士道的精神ニ外ナラナイ。

人はパンのみにて生くるものではない。幾ら物質的勞務管理を整備してゐても、單にそれのみにては人はついて來ぬであらう。產業界に於ける國民精神總動員運動の目標は、個々の工場に於ける產業道の昂揚であらねばならない。之あつて始めて事業主と從業員とが一體となつて熱と感激にもえてはたらけるのである。と云ふ譯で、こゝに一つ〇〇工場に於ける「非常時誓文」を御紹介する。同工場では之を厚紙に印刷、折疊式カードにして全從業員に所持せしめ、作業中常に念頭より忘れてはならない指導精神として居る。

產業精神を振起せよ!

某工場の事例

尙此他に出征者家族の生活の問題、戰死傷者の手當金、獻金、愛國公債、銃後慰問等の諸問題に就て語る可き點は多々有るが共へられた紙數もあるので此の邊でペンを擱き、餘は先輩の敎を乞ふ事に致す度い。

緊張二題

群鄕陽人

確か須松町の省線驛であつた。折から發車せんとする電車に間に合はんものとフルスピードで駆け込んだ人があつた。當に滑込まんとする瞬間、自動扉は閉鎖してしまつた。構內に駆け込んだ人は二人であつた。顏を見合せてアハヽヽと爆笑した。朗らかな緊張の綻である。よく見ると魚勇と書いたハッピからは眞黑な腕が光つてゐる。魚屋獨特のやつと包むやうな張り切つた猿又の下から毛むくじやな脚が四本在ルコトヲ識ル。我ガ國古來ノ國家的觀念、即チ國家ニ對シテノ性ヲ沒却セシメル自己犧牲ノ武士道的精神ニ外ナラナイ。

立つてゐる。次の電車が來ると二人はドッコイショと言つて乘つた。何處かへ用達に行くのであらう。須松町の驛に來る度に此の情景を思ひ出しては獨り笑ひするのである。

今私はこれと反對な場面を思ひ出す渡邊華山といふ客居を見た事があるが志士藩山の朋友高野長英が草中に華山の自決を聽き其の性格の剛さを思つて馬鹿左華山何故生き甲斐を續けて御國に盡さうとしないのか一華山の馬鹿!馬鹿!馬鹿!と獄吏の前で絕叫して氣が狂ふ場面であつた。

人間は餘りに緊張し續けると遂には氣も狂つてしまふ。

最近戰時經濟統制の問題が喧しくなつて來た。現今の經濟事情下にあつては統制は是非とも必要であらう。然し統制も經濟の運用を狂死させるやうなものであつてはならぬ。魚屋のそれは爆笑が人間に欲しいのである。經濟は省線電車の如く廻るべきであると思ふ。それは適程度の人間性を藥せた統制形態である。

精ノ言葉

謹ンデ皇室ノ彌榮ト皇軍將士ノ武運長久ト祈リ御祈リ申上マス

非常時誓文

一、常ニ大御心ノ溫キ父母ノ恩ノ深キヲ感謝シ忠孝ノ本ヲ尽シ以テ報ジ奉ラン事ヲ期ス

一、皇國產業ノ興隆ハ應ツテ我等ノ双肩ニ在ルコトヲ自覺シ堅忍持久勞働報國ノ一途ニ邁進スベシ

一、一瞬ノ油斷ハ身ヲ毀リ人ヲ傷ケ延イテハ國ヲ損フコトニ思ヒヲ致シ斷ジテ懈怠アルベカラズ

(指導者)

(雅人)

(指導者)

ヨシ來タ、サア來イ(一同)

皇恩感謝

皇恩感謝

元氣怪我ナク